

令和2年度 中学校教育研究会

国語科 学習指導案

指導者 北信教育事務所指導主事 目黒 哲朗 先生
共同研究者 信州大学准教授 八木雄一郎 先生
日時 令和2年7月6日(月) 第4校時
授業学級 2年D組(40名)
授業会場 2階多目的室
単元名 「キャッチコピーでPR～走れメロス～」
授業者 山口 学

1	本質に迫る生徒の姿	1
2	テーマ	1
3	テーマ設定の理由	1
4	単元名・学年	1
5	単元の目標	1
6	「文章の内容を精査・解釈する力」を高めるための手だて	2
7	教材化	2
8	単元展開	5
9	本時案	6

信州大学教育学部附属長野中学校 国語科
研究者 山口 学 戸塚 拓也 手塚 智佳子
坂口 香織 冨樫 壮 今井 悠太

1 本質に迫る生徒の姿

国語で正確に理解し適切に表現する生徒

2 テーマ

文章の内容を精査・解釈する力を高める指導の在り方

3 テーマ設定の理由

本校国語科では、国語で正確に理解し適切に表現する生徒の姿を目指している。この姿を具現するために、文学的な文章の学習において、「文章の内容を精査・解釈する力」を高める必要があると考えている。

「ちょうをつぶすこと～少年の日の思い出～」(令和元年11月・1年)では、ちょうをつぶす「僕」の心情を捉える学習を構想した。そこでは、「喉笛に飛びかかるころだった」という描写における動作の違いの理由を検討し、自分の考えをまとめる活動を位置付けた。その中でY生は、あなどるような表情で「僕」を見つめる「エーミール」の視線を目の当たりにした「僕」が、怒りの感情を弱めたことや、「エーミール」に対する恐怖心や自身の行為に対する罪の意識を強くさせていったことに気付いた。そして、Y生は、自分の考えを「自身の置かれた状況への理解を深めた『僕』は、不安定な心情となり、それがちょうをつぶすことに向かわせた。」とまとめた。このY生の姿を本校国語科では、ちょうをつぶす「僕」の心情を捉えた姿と見取った。このことから、登場人物の心情を捉える学習において、互いの読みを表現し合い(本事例では「場面の動作化」)、そこに表れた違いの理由について検討し、自分の考えをまとめる活動を位置付けることは、「文章の内容を精査・解釈する力」を高めることに有効であることが見えてきた。

一方、E生は、上記学習の中で、ちょうをつぶした「僕」の心情について、「後悔」、「怒り」、「悲しみ」など様々な可能性を挙げ、それらの感情が「僕」の中でどのような関係にあったのか、文章をさらに読んで考えたいと願った。これは、ちょうをつぶした心情の内訳を作品全体を根拠として見極めたいと願った姿であると捉える。このE生の姿から、作品全体を一層俯瞰して読むための手だてを究明することで、「文章の内容を精査・解釈する力」をさらに高めていくことができるのではないかと考えた。

そこで本単元では、「キャッチコピーでPR～走れメロス～」を扱い、作品の魅力を自分なりに捉える学習を構想する。そこでは、キャッチコピーで「伝えたいこと」を検討する活動を位置付ける。そして、キャッチコピーで「伝えたいこと」と登場人物との関連について考える活動を位置付ける。このような学習によって文学的な「文章の内容を精査・解釈する力」を高めることで、国語で正確に理解し適切に表現する生徒の姿の具現に迫ることができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

4 単元名・学年 「キャッチコピーでPR～走れメロス～」・2年

5 単元の目標 ※【 】内は、学習指導要領との関連を指している

(1) 知識及び技能 【(1) オ】

① 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。

(2) 思考力、判断力、表現力等 【C (1) ア、イ】

② 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えることができる。

③ 登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。(本時)

(3) 学びに向かう力、人間性等

④ 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

6 「文章の内容を精査・解釈する力」を高めるための手だて

・作品の魅力を自分なりに捉える学習において、キャッチコピーで「伝えたいこと」を検討する活動を位置付ける。(単元)

・登場人物の言動の意味などを考えて、内容を捉える学習において、キャッチコピーで「伝えたいこと」と登場人物との関連について考える活動を位置付ける。(本時)

7 教材化

(1) 単元に寄せた教材化

① 「走れメロス」に「キャッチコピーの検討」を取り入れる意図

本校国語科では、「文章の内容を精査・解釈する力」を高めるために、文学的な文章の学習形態の一つとして、劇化に関連する言語活動を取り入れている(紀要国2図1)。ここでは、今回の対象学年である2学年に取り入れる言語活動「キャッチコピーの検討」の具体と、「走れメロス」に本言語活動を取り入れる意図を以下に挙げる。

まず、「キャッチコピーの検討」の具体についてであるが、生徒は、文学的な文章である「アイスプラネット」を扱った前単元において、「キャッチコピーの検討」に初めて取り組んだ。そこではまず、NHK for school「メディアタイムズ第2回『心を動かす“キャッチコピー”』」を視聴し、キャッチコピーを検討する際に四つの段階があることを知った(表1左側)。その後、生徒は、実際に四つの段階に沿って「キャッチコピーの検討」に取り組み、

自らのキャッチコピーを決め出していった(表1右側)。このように、四つの段階があり、それらに取り組んでいくこと、これを本校国

表1 キャッチコピーを検討する際の段階と「アイスプラネット」の例

キャッチコピーを検討する際の段階	「アイスプラネット」を扱って生徒が取り組んだ「キャッチコピーの検討」の実際
ターゲットを定める	本校図書室に来室する生徒
ねらいを決める	作品をキャッチコピーで伝える
伝えたいことを明確にする	視野の広がり 成長 など
表現を考える	「不思議アタマが世界の扉を拓く」から「不思議アタマが拓く世界」に変更 など

語科では、「キャッチコピーの検討」と捉えている。

次に、「走れメロス」に本言語活動を取り入れる意図については、『「伝えたいこと」を検討する』必要が生じると考えることにある。これは、「アイスプラネット」と「走れメロス」という両作品の違いに由来するものである。前単元で「キャッチコピーの検討」に取り組んだ生徒は、主人公である「僕」と対人物である「ぐうちゃん」の関わりを基に、「視野の広がり」や「成長」などを「伝えたいこと」として挙げた。そして、それらが類似していたことから、「伝えたいこと」を検討する必要感を抱く生徒は少なかった(表1)。一方で、「走れメロス」において生徒は、「信実」や「正義」、「友情」、

「勇者」など、「伝えたいこと」が複数あることに直面すると考える。また、いずれの「伝えたいこと」も作品から読むことができるのではないかと考えたり、「伝えたいこと」同士に類似や相違があることに気付いたりしていくと考える。これらを前にした生徒は、「伝えたいこと」を検討する必要感を抱くだろう。そして、文章を読み返し、話の展開や登場人物の言動を吟味したり、友と話し合ったりして検討していく中で、「伝えたいこと」を明確にしていくだろう。この生徒の姿を、「文章の内容を精査・解釈する」姿と捉え、本單元にも「キャッチコピーの検討」を取り入れることとした。

② 作品の魅力を自分なりに捉える学習において、キャッチコピーで「伝えたいこと」を検討する活動を位置付ける

第1・2時、「走れメロス」を通読した生徒は、感想を語り合う。その中で、一部の生徒は、前單元において「キャッチコピーの検討」に取り組んだ経験を想起し、「走れメロス」のキャッチコピー作りを試みるだろう。教師は、そのような生徒を全体で紹介した後、前單元と同じターゲットとねらいの基で、「走れメロス」のキャッチコピーを作ってみるように促す。これを受け、生徒は、キャッチコピーを作り、共有する。そして、「真の勇者がここにいる」や「信実は人を動かす」など、多様なキャッチコピーに出合う。さらに、そのようなキャッチコピーにした理由を確認し合っていく中で、「伝えたいこと」が複数あることやそれらがいずれも作品から読めること、「伝えたいこと」同士が類似したり相違したりしていることに気付いていく。以上のように、キャッチコピーの共有を通して気付きを得た生徒は、「伝えたいこと」を検討する必要感を抱くだろう。そこで、教師は、単元の学習問題『走れメロス』のキャッチコピーで、私たちは何を伝えればよいのだろうか。」を設定する。

第3・4時の冒頭、教師は、単元の学習問題の解決に向けて、どのように追究していくか問う。これに対して生徒は、前時における「伝えたいこと」同士の類似や相違への気付きから、「伝えたいこと」同士の関係について考えることを求めると考える。また、「友を人質にしたり、諦めようとしたりする『メロス』から、『勇者』や『信実』などを読んでいいのだろうか。」や「悪役である『ディオニス』をキャッチコピーの対象としてよいのだろうか」など、各登場人物に対する捉えの違いに戸惑う生徒もいると考える。そこで、教師は、単元の学習問題の解決に向かうために、二つの学習問題（「それぞれの『伝えたいこと』は、どのような関係にあるのだろうか。」、「それぞれの登場人物は、どのような人物像だろうか。」）を設定し、追究を行うことを確認する。その中で、生徒は、前者の学習問題に対し、人の心模様を表す「信実」や「正義」、人と人との関係を表す「友情」、人の行動のさまを表す「勇者」など、それぞれの「伝えたいこと」の違いを捉えていくだろう。また、登場人物が「メロス」と限定されやすい「勇者」や、「メロス」と「セリヌンティウス」と限定されやすい「友情」に対し、登場人物が限定されにくい「信実」（「メロス」単独、「メロス」と「セリヌンティウス」、「ディオニス」を含めた3人など）というように、「伝えたいこと」とそれに関する登場人物の関係についても捉えていくだろう。一方で、後者の学習問題に対して生徒は、「自分の中にある正しさに突き動かされて生きてきた『メロス』が、自分の弱さに気付き、向き合う中で新たな自分を作ることができた。」など、登場人物の変化を踏まえ

ながら各人物像を捉えていこう。このように、作品の内容や「伝えたいこと」への理解を深めた生徒は、単元の学習問題の解決に挑もうとすると考える。

本時、単元の学習問題の解決に臨む生徒に対し、教師は、「伝えたいこと」と登場人物の関連について考える活動を位置付ける。その中で生徒は、それぞれの「伝えたいこと」への理解を深めていこう。そして、それを基に自分の「伝えたいこと」がもつ価値を再認識したり、捉え直したりしながら、自分の考えをまとめていこう。

第6時・最終時、生徒は、これまでの学習を振り返りながら、キャッチコピーの修正を行う。その後、生徒は、互いのキャッチコピーを共有する。この時、生徒は、単元の冒頭において、同じように互いのキャッチコピーを共有した時とは異なる印象をもつと考える。これは、キャッチコピーで「伝えたいこと」を検討する前と後という違いが生むものであり、その具体としては、それぞれの「伝えたいこと」に対する理解が単元を通して深まったことや、各登場人物が作品の中で遂げた変化を理解したこと、それらの理解を基に明確にした自分の「伝えたいこと」に対する価値を見いだししていることなどが、背景にあると考える。そして、このような生徒の姿を、作品の魅力を自分なりに捉えた姿であると考え。

(2) 本時に寄せた教材化

登場人物の言動の意味などを考えて、内容を捉える学習において、キャッチコピーで「伝えたいこと」と登場人物との関連について考える活動を位置付ける

本時、教師は、単元の学習問題に対する考えを問う。これに対して生徒は、これまでの追究を基に、『メロス』が最初から『勇者』であったわけではなく、『勇者』となっていくことを伝えたい。」などと述べる。また、その中には、『メロス』の変化に伴い、『信実』という言葉も変化している。そこをキャッチコピーで伝えたい。」など、これまでの追究における気づきを指摘する生徒も出てくると考える。そこで教師は、そのような指摘に頷く生徒や、「伝えたいこと」の意味合いが変化することに関心を寄せ、自身の「伝えたいこと」と登場人物の変化との関係を見返そうとする生徒の姿から、学習課題『「伝えたいこと」と登場人物の変化との関係を比較して、考えをまとめよう。』を据え、追究に入っていくことを確認する。

追究を始めていく中で、多くの生徒は、まず、自身の「伝えたいこと」と登場人物との関係を見返すと考える。しかし、次第に生徒は、友の「伝えたいこと」と登場人物の変化との関係についても考えを及ばせ、それらの比較を始めていくと考える。そして、比較をしていく中で生徒は、それぞれの「伝えたいこと」への理解を深めていこう。また、それを基に、自分の「伝えたいこと」がもつ価値を再認識したり、捉え直したりしながら、自分の考えをまとめていこう。このような生徒の姿を、登場人物の言動の意味などを考えて、内容を捉えた姿であると考え。

以上のように、作品の魅力を自分なりに捉える学習において、キャッチコピーで「伝えたいこと」を検討する活動を位置付けたり、登場人物の言動の意味などを考えて、内容を捉える学習において、キャッチコピーで「伝えたいこと」と登場人物との関連について考える活動を位置付けたりすることで、生徒は、「文章の内容を精査・解釈する力」を高めていくことができると考える。

8 単元展開

全7時間 本時は第5時

段階	学習活動	◇教師の指導・支援 ◆予想される生徒の反応	○評価規準	時間
導入	1 学習の見通しをもつ。	<p>◇「走れメロス」を範読する。</p> <p>◆困難を越えて、「ディオニス」を改心させる「メロス」がすごいと思う。そんな「メロス」にドキドキしたり、応援したりしながら読んだ。</p> <p>◇「走れメロス」のキャッチコピーを作ろうとしている生徒を全体に紹介し、前単位と同じようにキャッチコピーを作ってみるように促す。</p> <p>◆「メロス」のすごさを踏まえると、「真の勇者がここにいる」がよい。</p> <p>◇それぞれのキャッチコピーを貼り出し、共有する。</p> <p>◆「アイスプラネット」の時以上に、方向性に違いがある。初読だったこともあるけど、「伝えたいこと」の違いもあると思う。僕が伝えたい「勇者」以外に、「信実」や「友情」などがあり、それらと「勇者」は意味合いが少し違う。この作品では何を伝えたらよいのだろうか。</p> <p>◇上記のような反応を受け、単元の学習問題を設定する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">単元の学習問題：「走れメロス」のキャッチコピーで、私たちは何を伝えればよいのだろうか。</p>	<p>④互いのキャッチコピーに表れた違いに関心をもち、伝えたいことを検討している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>	2
展開	2 キャッチコピーで伝えたいことを検討する。	<p>◇単元の学習問題の解決に向けて、見通しを確認する。</p> <p>◆「伝えたいこと」同士をもう少し比べてみたい。それと、僕は、「メロス」の姿から伝えたいことを考えたけど、「メロス」と悪役の「ディオニス」の姿から考えた人もいる。「ディオニス」は悪役に過ぎず、ここで取りあげるような登場人物ではないのではないかな。</p> <p>◇上記のような反応から二つの学習問題を設定し、追究を始めていく。</p> <p>◆「信実」や「正義」は、道徳でやるような感じの言葉だ。一方で、「友情」は「メロス」と「セリヌンティウス」の関係そのものだ。そして、僕が伝えたい「勇者」は、人の姿を表現したものになる。また、「メロス」だけを指す「勇者」に対し、二人の関係性を指す「友情」、登場人物を限定しない「信実」といった違いもある。</p> <p>◆最初にすごいと感じた「メロス」だけど、作品途中ぐらいまでは、自分の中にある正しさに突き動かされて動いてしまう人物と読むこともできる。しかし、それだけでは通用しない状態を前に、自分の弱さが表れる。そして、その弱さを乗り越えようとしていく中で新たな自分を作ることができたのだ。「セリヌンティウス」や「ディオニス」についても、よく読むと、それぞれが変化していることが見えてきた。これまでのことを基に、何を伝えればよいか話し合いたい。</p>	<p>②「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>	2
		<p>◇「伝えたいこと」と登場人物との関連を考える活動を位置付ける。</p> <p>◆僕は、やはり「勇者」を伝えたい。そして、「勇者」は、この作品の結果のようなものだ。誰かに見せつける「信実」や「友情」しかもっていなかった「メロス」だが、走る中で、「メロス」自身が「信実」を掴み、「友情」を篤くしていく。こういう姿の結果である「勇者」を「伝えたいこと」にし、「勇者」というものは読後に考えてもらいたい。だから、僕は、「勇者」を伝えたい。</p>	<p>③「読むこと」において、登場人物の言動の意味などを考え、内容を捉えている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>	
終末	3 単元のまとめを行う。	<p>◇単元の学習問題に対する考えを基に、キャッチコピーの修正をする。</p> <p>◆「勇者」を伝えたいが、前時までで見えてきたその中身を予感させるようなキャッチコピーにする必要がある。そのために、読み手である私たちという表現をあえて使うとともに、倒置法を使って勇者を強調できる「私たちは目の当たりにする、真の勇者を」にしよう。</p> <p>◇互いのキャッチコピーを共有した後、単元の学びを振り返る。</p> <p>◆2時間目に同じようにキャッチコピーを共有したけど、その時は色々なキャッチコピーがあることに戸惑った。でも、今回は、こうやって方向性の違いがあっても、それでよいと思うことができています。これは、それぞれの「伝えたいこと」のよさが分かっていることが大きいように感じる。少ない字数で表現するキャッチコピーは簡単なものではないけれど、「走れメロス」とはこういう作品だということを考える上では、よい方法だと思う。そして、こういったキャッチコピーを入り口にして、読書を始めていくというのも楽しいことだと思う。</p>	<p>①比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解して、使っている。</p> <p>【知識・技能】</p> <p>④単元を通じた自分の学びを振り返る中で、学習のよさや自分の取り組みをまとめようとしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>	2

9 本時案

(1) 主眼

「走れメロス」のキャッチコピーで何を伝えればよいか考える場面で、「伝えたいこと」と登場人物の変化との関係を比較して、考えをまとめることを通して、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を捉えることができる。

(2) 本時の評価規準

登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を捉えている。

(3) 展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	◇教師の指導・支援	時間	備考
導 入	1 本時の学習の見通しをもつ。	単元の学習問題：「走れメロス」のキャッチコピーで、私たちは何を伝えればよいのだろうか。 ア 僕は、「勇者メロス」ではなく、「メロス」が「勇者」となっていくことを伝えたい。そして、その中身が、「信実」や「友情」になってくるはずだ。 イ Aさんは、「メロス」の変化に伴い、「信実」という言葉も変化していると考えている。「勇者」の中身をしっかりと考える上で、「信実」と「メロス」の変化の関係を考えることは必要だ。	◇前時までの学習を振り返り、考えを確認する。 ◇アやイのように、「伝えたいこと」と登場人物の変化との関係を指摘する反応から、学習課題を据え、追究に入ることを確認する。	5分	学習カード
	2 個人追究を行う。	ウ 「ディオニス」に見せつけたいと思っていた「信実」に、「メロス」自身が苦しみ、投げやりになった。しかし、そのような自分を鼓舞して乗り越えていった。こういった姿から、「メロス」自身が新しい「信実」を掴んだのではないか。	◇前時までに読み取ってきた登場人物の人物像を基に考えることを基本とするが、そこに新たな描写や考えを加えてよいことを確認する。	8分	
展	3 全体追究を行う。	エ Aさんは、「フィロストラトス」とのやり取りの場面で、「信実」の意味合いが変わると考えていた。そこには確かに、「信じられているから走るのだ。」や「それだから、～中略～ なんだか、もっと恐ろしく大きいもののために走っているのだ。」などがある。「ディオニス」に見せつけることを目的にしていたのに、もうそれすらも忘れ、吸い寄せられるように町に向かっていく。これは、さっきの、新たな「信実」を掴んだという考えと共通するのではないか。 オ Bさんは、自分の中にある「信実」ではなく、信頼されていることに応える一心で生まれた「信実」と考えていた。さっきの吸い寄せられるようにというのは、自分に信頼を向ける「セリヌンティウス」がいる町に吸い寄せられていたのか。それと、これは「友情」ともつながると思う。信頼が向けられることこそ、「友情」だ。「フィロストラトス」とのやり取りの場面で、それが自分に向けられていることを「メロス」は痛感し、それに応える一心で走った。「ディオニス」や「セリヌンティウス」というより、信頼に応える、ただこれ一つだったのだ。	◇基本的には、全体追究の方向性を最初に限定して始めていくことはしない。全体追究の中で出てきた発言に対し、関連や異なりを求めていく中で、それぞれの「伝えたいこと」を比較していくようにする。 ◇それぞれの「伝えたいこと」を比較していく中で、エのように登場人物の変化に伴って「伝えたいこと」自体も変化していると指摘する発言が挙がるのが予想される。その際は、そのような指摘に対してどのように考えるか全体に問い返し、追究を深めていく。 ◇オのように、「伝えたいこと」同士の関係について指摘する生徒も出てくるのが予想される。これについても、全体に問い返し、関係に関する追究を深めていく。	22分	
	4 学習問題に対する考えをまとめる。	キ 僕は、やはり「勇者」を伝えたい。そして、この「勇者」は、「走れメロス」という作品の結果のようなものだ。誰かに見せつける「信実」や「友情」しかもっていなかった「メロス」だが、走る中で、「メロス」自身が「信実」を掴み、「友情」を篤くしていく。こういう姿の結果である「勇者」を「伝えたいこと」にし、「勇者」というものはと読後に考えてもらいたい。だから、僕は、「勇者」を伝えたい。	◇単元の学習問題に対する考えをまとめるように促す。 ◇考えが深まったからこそ、自分の考えをまとめられずにいる生徒には、そのようにまとめられずにいる理由を書き残し、次時の追究につなげるように促す。	10分	
終 末	5 本時の振り返りを行う。	ク それぞれの「伝えたいこと」と登場人物の変化は非常に深い関係にあることが分かった。また、それぞれの「伝えたいこと」同士の関係の深さも、こうやって考えてみて改めて分かった。僕は、考えのまとめでも挙げたけど、「勇者」を伝えたいのは変わらない。でも、「勇者」の中身が分かったからこそ、それを予感させるキャッチコピーにして、「メロス」の「勇者」ぶりを読んでもらえるようにしたい。	◇本時の学習を通して考えた「伝えたいこと」を発表する場を設け、本時に気付いた新しい内容の捉えや、自己の学びの振り返りを問う。 ◇「伝えたいこと」を明確にしたことを確認し、次時の学習の見通しを問う。	5分	